

板橋区の 身近な会社が ホンキで取り組む SDGs



こども技能塾



西台中学校「SDGsの木」



絵本×SDGs 「いたばしさんぽ」すごろく

- 1 **いたばしプロレスリング株式会社**
- 2 **栗山造園株式会社**
- 3 **株式会社興真運送**
- 4 **株式会社サンアルク**
- 5 **城北ドローンオフィス**
- 6 **司産業株式会社**
- 7 **ホクシヨー株式会社**
- 8 **株式会社ヤマテ・サイン**



板橋区は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

Q1.何を目指している会社なの？

プロレスを通じて、皆が笑顔で暮らせるまちづくりを目指しています。プロレスを観た時の楽しい思い出を家族や仲間と語らい、人の輪が広がることに貢献したいと思っています。



地元板橋に元気と笑顔を！

Q2.今はどんなことをしているの？

板橋周辺を中心とするお客様に向けて、地元の商店街や町会、企業とともに、“いたプロ”独自のプロレス大会を開催し、楽しく元気になれる時間・空間を届けています。選手のスキルを活かした運動教室を行い、子供も大人もさらに健康になれるような指導にも取り組んでいます。

Q3.これから実現したいことは？



多様な人たちが互いに助け合い、誰に対しても優しいコミュニティ（人と人のやさしいつながり）がたくさん生まれるまちにしたいです。また、若者たちが社会へ出るための経験を積むことができ、大人が健康づくりを継続できる地域社会を実現させ、板橋区に笑顔をもっと増やし、さらに住みやすいまちにしていきたいと思っています。

Q4.そのためにどんなチャレンジをしていくの？

地域の人たちが気軽に集えるような常設のプロレスリング付きのジムを立ち上げます。レスリングや様々な活動を通じて、相手を思いやる気持ちや命の大切さ、知的好奇心などを自ら育む「情操教育」や、いつでも誰でも気軽に参加できる「生涯スポーツ」などに関われる場づくりをしていきます。講師や練習生も増やして、多くの人に活躍してもらいます。



いたばしプロレスリング

代表取締役 **はやて** さん

Q1.何を目指している会社なの？

皆さんの周りには緑がたくさんありますか。緑が多いと皆さんはどのような気持ちになるでしょうか。私たちは造園業として、緑豊かな環境づくりを通じて、人々の心を豊かにすることを目指しています。



樹木の手入れ作業

Q2.今はどんなことをしているの？

緑の多い環境を作り出すために、公園や道路脇に木を植えたり、家の庭や生け垣を作ったりしています。また、緑のある環境をより良く保つために、作った庭や植えた木の手入れ、公園や高速道路脇の草刈り、大きくなりすぎた木や枝を切るなどの維持管理を行っています。

3 すべての人に
健康と福祉を



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



Q3.これから実現したいことは？

①都心に近く建物が密集する板橋周辺でも緑をいっぱい増やし（緑化）、まちの空気をキレイにしたいです。②子供も若い人もお年寄りも、誰もが安全で楽しく過ごせる「板橋新世代公園」を増やしたいです。③造園工事で切った枝葉が多く残るので、焼却処分しています。これをゴミではなく価値あるものにして、地域のお役に立ちたいです。

Q4.そのためにどんなチャレンジをしていくの？

①緑化の大切さを多くの方に伝え、理解してくれるみんなの力で病院や学校などの屋上や壁面を緑化していきます。②同じ造園業者の方たちと協力して、子供、お年寄り、障害のある方、ペットにもやさしい公園をつくれます。③新しい機械を導入して、切った枝葉を100%堆肥にします。区内の幼稚園や小学校に配布し、子供たちが土に触れる機会を増やします。

栗山造園株式会社

代表取締役 石井 洋美さん



Q1.何を目標している会社なの？

トラック運送は、公共の道路を使って貨物をお客様に届ける重要な交通基盤です。それを維持するため、社員の安全と生活を最優先に考え、安全で確実、敏速な輸送サービスを提供することを目指しています。



当社のトラック

Q2.今はどんなことをしているの？

企業からの依頼で、印刷インキが入ったドラム缶や印刷物など印刷関連の製品を、主に関東から全国に運んでいます。災害が発生したときには緊急に必要な物資を運ぶなど、敏速な対応が求められる仕事も行います。安全運転や事故防止のための講習会は、年に何度も行います。



Q3.これから実現したいことは？

社員の健康は安全な輸送の基盤であるため経営の重要課題と位置づけて、社員の健康増進を大きく高めます。また、地球環境を守るため、温室効果ガスや廃棄物の排出削減を加速します。さらに、ドローンなど新しい輸送手段の仕組みづくりや、日本の高度な輸送事業の海外展開などで、業界に変革をもたらしたいと考えています。

Q4.そのためにどんなチャレンジをしていくの？

社員がより安心して健康に過ごせる環境を整えるため、健康経営優良法人の認定を目指します。また、エコと安全を両立する運転をさらに極めます。さらに多くの方と連携して、ドローンの活用など次世代の輸送事業の姿について実験し、外国の方には輸送事業の技能を習得してもらい、母国でその展開を担っていただきます。

株式会社興真運送

代表取締役 篠崎 眞さん



株式会社興真運送
篠崎 眞 理事

Q1.何を目指している会社なの？

電気は人が生活するうえで、なくてはならないエネルギーであり、地域を守り発展させるインフラ（基盤）です。電気工事で地域、住民、従業員、お客様を元気にし、思いやりのある優しい会社を目指しています。



解放的な打合せスペース

Q2.今はどんなことをしているの？

電気工事のプロとして、エアコンや照明器具などお客様が本当に必要としている設備を、費用と効果を考えて最適な設備となるよう提案し、工事・設置を行っています。お店や事務所、レストランなどで快適な照明や空調管理ができるようにすることでお客様に喜んで頂いています。

Q3.これから実現したいことは？

電気工事を含む建設業は「1人前になるまで10年かかる」「高齢者には厳しい」「悪天候で

急に仕事が休みになる」など人材確保が難しい業界と言われています。そこで、若い人は5年で一人前の職人になり、経験のある高齢者はずっと活躍でき、仲間同士で柔軟に仕事を融通できるようにして、建設業を安全で長く働ける業界にして人材不足を克服したいです。

8 働きがいも
経済成長も



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



11 住み続けられる
まちづくりを



Q4.そのためにどんなチャレンジをしていくの？

社内で、電気工事のマニュアル化や動画化、職人育成体制の整備、高齢者の経験を生かす仕事の創出を進めます。加えて、世の中の建設業の人々がインターネット上で交流するコミュニティサイトを運営します。専門の知識やノウハウを広く共有するほか、急に仕事を頼みたい人とそれを受けたい人のマッチングなども可能にします。

株式会社サンアルク

代表取締役 田嶋 敏彦さん



Q1.何を目指している会社なの？

ドローン(無人飛行機で)みんなの暮らしの安心と安全を目指している会社です。

日常生活では防犯に、災害が起こった時には防災や復旧にドローンを役立てられるような社会をつくりたいと考えています。



ドローンを活用した災害訓練

Q2.今はどんなことをしているの？

地域で防災訓練やトイドローン体験会を行いドローンへの理解を深める機会を作っています。カメラを搭載したドローンで学校や各種イベントの空撮もしています。また、遠くからでも温度がわかる赤外線カメラを搭載したドローンで建物を壊さずに内部の異常の点検もしています。

Q3.これから実現したいことは？

ドローンの力を活かし、安心・安全、そして平和な地域社会を実現したいです。たとえば、

①お店が遠くて買い物が難しい人に欲しいものがドローンで届く安心感のある社会や、②災害が起きたときに、自治体や地域みなさんと協力して必要な物資や情報を早く行き渡らせ、みんなの命を守ることができる安全な社会を実現したいです。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



11 住み続けられるまちづくりを



16 平和と公正をすべての人に



Q4.そのためにどんなチャレンジをしていくの？

ドローンを正しく知ってもらうため、子供からお年寄りまで参加できるドローン体験会やプログラミング教室を開きます。

ドローンの操縦資格が取れるスクールもつくります。

また、災害時にみんなの命や生活を守れるように、ドローンを使った防災訓練では自治体・警察・消防との連携を拡大し、被災状況の空撮や緊急物資の空輸の訓練もしていきます。

城北ドローンオフィス

代表 宮本 拓さん



Q1.何を目指している会社なの？

創業から半世紀、彩り豊かな街づくり、安全向上、省エネなどを通じ、地球環境と人間社会を守り、お客様に笑顔をお届けすることを目指しています。「お客様と仲間にとっての一番になる」ことを、大切にしています。



浦和工場のスクリーン印刷機

Q2.今はどんなことをしているの？

店舗や住宅の内装、屋内外看板、案内板、そしてバスや電車の車両などみなさんも普段目にする色々なところに、印刷したフィルムシートを装着して街で暮らす人々に情報を伝えています。デザインした絵や文字を印刷して広告や標識などにして、装着まで一貫して行います。

Q3.これから実現したいことは？

板橋区民が働きたいと思える会社になりたいです。そのためにも技術を磨き、広告や標識に加え教育・芸術分野にもフィルム印刷の可能性を高めたいと考えます。また、環境負荷の低い印刷や超大型の印刷を実現し、地球環境にも人間社会にもやさしいものづくりを極めたいと思います。



Q4.そのためにどんなチャレンジをしていくの？

社内マイスター制度の導入など、社員の成長プランを会社が後押しし続ける仕組みを拡充します。植物由来フィルム、インクの紫外線硬化技術など、地球環境にやさしい印刷技術を開発していきます。加えて、芸術系大学などの教育機関、地域のアーティスト、板橋区の小学生など、創造性や才能豊かなパートナーと協業し、フィルム印刷の使いみちを拡大します。



司産業株式会社

代表取締役 浅野 衣理奈さん

Q1.何を目指している会社なの？

建築資材用のゴム製品を通じて、人々の豊かなくらしを支える会社です。信用と誠実を大切に、世の中の人にも、社員にも「ホクシヨーがあって良かった」と思われる会社になることを目指しています。



川越街道沿いにある本社

Q2.今はどんなことをしているの？

建設会社などに、建築資材用ゴム製品を、開発から取付工事、アフターケアまで一貫して提供しています。家の中の窓や扉、学校の中のドアを見ると、私たちの製品が使われています。ゴム製品のプロである私たちは、単なる「製品」ではなく生活に役立つ「機能」を売っています。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう



12 つくる責任 つかう責任



13 気候変動に具体的な対策を



Q3.これから実現したいことは？

ゴムは通常のリサイクルが難しい素材です。社内で端材となったゴムはやむを得ず廃棄していましたが、端材ゴムの廃棄量を削減するための技術的可能性を高めたいです。

また、建物にゴム製品を上手に使うと断熱・節電・省エネ効果を高められることについて、お客様だけでなく多くの方に正しく理解してもらえるようにしたいです。

Q4.そのためにどんなチャレンジをしていくの？

社内でゴム端材の発生要因を分析して発生量を削減しながら、なお残る端材については新たな使いみちの探求(アップサイクル)を進めます。

また、ゴム製品を上手に使った建物の環境性能を科学的に評価します。いずれも当社単独では困難であり、協力会社との連携を深めます。そしてSDGsの取組みとその効果について、展示室を設置して社外の人に伝えます。

ホクシヨー株式会社

代表取締役 杉山 英男さん



Q1.何を目指している会社なの？

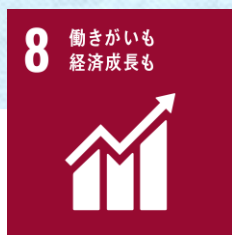
街は、看板などの商業サインや公共サイン、展示物など、ディスプレイによって彩られています。当社はお客様の「想いをカタチに」するため、サイン・ディスプレイを通じて美しい街づくりに貢献する会社です。

Q2.今はどんなことをしているの？

建築・内装業者や、百貨店・家電量販店、イベントを企画する企業などに、「想いをカタチに」して提供しています。具体的には、お客様のご要望をプラン化し、看板などのサインやディスプレイの、提案・設計から製作・加工・工事まで、幅広い仕事をしています。



小豆沢体育館隣にある本社



Q3.これから実現したいことは？

①板橋区の小学生のみなさんが、印刷物を製作する仕事を知り、学習できる社会をつくり

ります。②社員一人ひとりが会社の仕事にやりがいを持ち、働きやすく、家庭と仕事を両立できるような職場環境を実現します。③地球環境に配慮した製品を製作し、塗料などに含まれる有害な化学物質（VOC）の40%削減を目指します。

Q4.そのためにどんなチャレンジをしていくの？

①職場見学やワークショップを開催し、板橋区の小学生のみなさんが学べる「印刷物の製作体験」の場を提供します。②社員に新たな学習の機会を提供し、互いに助け合い、快適に仕事ができる職場にしていきます。③地球環境に配慮しながら看板などを制作できる設備を計画的に導入します。廃棄物の量を調べ、削減する仕組みをつくっていきます。



株式会社ヤマテ・サイン

代表取締役 安川 重理さん

〈令和4年度参加企業インタビュー〉

1年前にSDGs経営計画を策定した社長に、その後どのようなSDGs経営を進めているか、お話を聞きました！



株式会社ルケオ

代表取締役社長 **吉村 健太郎** さん

吉村社長、1年前にSDGs経営計画を作ったあと、社内ではどのような変化がありましたか？



昨年板橋区の支援により、当社がこれから取り組む項目をSDGsの17目標のいくつかと紐づけて示し、その実行計画を策定できました。SDGsを経営に取り入れたことで、社内でも目的や効果への意識が高まりました。製品づくりはもちろん、仕事のやり方もコミュニケーションも、「何のために」を考える場面が増えたと思います。

環境対策の取組みは、以前から積極的に行っていましたよね。



はい。社内では、作業効率の向上によって、省エネの効果アップも狙っています。また、2011年に開始した「緑のカーテン」は、省エネ効果の向上と同時に地域の景観を良くすることも意識して取り組んでいます。これからも、省エネや省資源のための設備投資は積極的に行いたいと考えています。考えてはいるのですが…

やはり設備投資のコストがどうしても引っかかる、ということですか？



そうなのです。経営上、コストは無視できません。しかしSDGsでは環境性と経済性のバランスも大切だと聞きましたので、少しホツとしています。無理な設備投資は行わず、時期や方法をしっかりと見極めています。

未来を見ながら足元も見る、という感じですね。
ところで、お客様への提案や営業のやり方も変わったのでしょうか？



当社製品の偏光板・波長板は光の進み方を自在に変えるための高度な技術を用いていますが、今は技術が優れていることだけでなく、当社の製品を使うとどんな良いことがあるかについてもしっかりと伝えるようにしています。

具体的には、お客様にどのような伝え方をしているのですか？



たとえば、当社の製品を使うとお客様の製造工程で不良の発生を大幅に抑制できること、そのため過剰な在庫を持たなくて済むこと、そのため廃棄ロスを減らせること、そのためコストも削減できること、そして「お客様のお客様」にも喜んでいただけること…などです。技術を起点に、SDGsの意識により色々つながるんです。

お客様にとって良さそうなことがたくさん広がっていくイメージで、ワクワクしてもらえそうですね。



はい。お客様も環境性・社会性・経済性が良くなり、お客様と当社がいっしょに SDGs に貢献できるということなんですね。少しずつですが、お客様の反応や感触も変わってきているように思います。だから、私たちもワクワクしています。

従業員のみなさんもワクワクするお仕事、いいですね！
他にも従業員のみなさんがワクワクするようなことは、何か計画していますか？



働き方を大胆に変えようとしています。これまで当社は週休 2 日だったのですが、実はいま、「完全週休 3 日」の実現を目指しています。
従業員は全員、毎週土日と平日 1 日が休みになります。

すごいですね！でも、会社はそんなにお休みを増やしても大丈夫なのですか？



はい。従業員は週休 3 日でも、会社自体は週休 2 日のままにします。
お客様に迷惑をかけることも、技術開発のスピードを落とすことも、生産を減らすこともありません。従業員の給料ももちろん減らさず、逆に増やしていきたいです。

休みが増えるのはうれしいことですが…その分、出勤する日は仕事が大変になりそうだし、実現は簡単ではないようにも感じます。



そうですね。出勤を週 5 日から週 4 日にするには、単純計算で全員 1.3 倍以上の速さで仕事ができなければなりません。一人ひとりのがんばりに期待するだけでは厳しいので、全体の組織力で効率を高めるため、思い切った IT 化やレイアウト変更なども進めます。また、社内が「いつも全員が揃わない」状態になりますので、それでもお客様に迷惑をかけずに会社が機能する仕組みづくりも進めています。そして大切なことは、従業員一人ひとりの「気持ち」です。お互いに助け合って本当に一つのチームになれたとき、完全週休 3 日が実現できると思います。

なるほど！各々がバラバラにがんばるのではなく、みなさんが一体となってチャレンジするんですね！
実現に向けて、今はどのような取組みをしていますか？



社内のいろんなことを変えなければならないので、一気ににはできません。会社の指示で一部の従業員に 1 日休んでもらう「練習休暇」を行い、その時に発生する効果や問題を検証して改善を図りながら、少しずつ拡大を進めているところです。

従業員の完全週休 3 日が実現すると、従業員のみなさんや会社はどのように変わりそうですか？



「プラス 1 日」を自由に使って、生活も仕事も豊かにしてもらいたいです。さらにゆとりがあれば、各々が何か新しいことにチャレンジしてほしいですね。そうなれば当社は、従業員が定着し、新たな仲間も集まり、もっと成長できると思うのです。

SDGs をヒントにして環境・社会・経済のことを考えながら、計画を進めているのですね。
吉村社長、ありがとうございました！

手に取ってくれたみなさまへ

板橋区は令和4年度「SDGs 未来都市」に選定されました。
「東京で一番住みたくなるまち」をめざし、
そのために板橋区の中小企業の応援にも
力を入れています。

板橋区にある先進的な中小企業が
SDGs の切り口で地域や社会にもっと役立ちながら、
自分たちの会社ももっと発展させていくために、
「ホンキの SDGs 経営計画」をつくりました。

このリーフレットを読んだみなさんが
みなさんの近くにある会社の取組みを知って、
「一緒にやってみたいな」
「わたしに何ができるかな」と
一緒に考えるきっかけになることを
願っています。

板橋区は区内企業の SDGs 経営のサポートに取り組んでいます。
このリーフレットに掲載された企業は、区のサポートによって SDGs
経営を進めてきました、興味のある方はこちらまで。



板橋区 SDGs/ESG 経営推進支援事業

板橋区の身近な会社がホンキで取組むSDGs

令和6年3月31日発行

編集・発行 東京都板橋区 産業経済部産業振興課

☎03-3579-2172

173-0004 板橋区板橋 2-65-6

情報処理センター5階

刊行物番号

第 R05-141 号